
大人の遠足合宿・冬編 “市川本町から蛾^{ひる}ヶ岳”

西 正子

●2019年12月21日(土)～22日(日)

●メンバー

島崎 横堀 岩田 白井 八木 西A 西M

夏の「伊豆山稜線歩道」につづく大人の合宿・冬編として「市川本町駅から蛾(ひる)ヶ岳」を計画した。

あまり聞かない名前だが、おおざっぱに言えば、北は甲府盆地、南は富士五湖となる御坂山塊に位置する山で、標高は1279m。コース途中にある四尾連(しびれ)湖湖畔の水明荘に一泊して山頂を往復する約17キロの道のりだ。

ゆるゆる合宿の位置づけは、前回と同様で

- ① 基本朝立ち できれば電車利用
- ② 2～3日の縦走コース
- ③ 自炊を楽しむが、荷物は軽く
- ④ 万が一のエスケープルートが豊富となっている。

このうち①に関しては一部車を利用、②についても今回は往復コースになってしまったが、大体のところでは会員の同意を得られたのだろう。伊豆を越える7名の参加があり、にぎやかな2日間となった。

21日 曇りのち晴れ

市川本町駅(10:50)→碑林公園(11:10)→狼煙台(13:00)→四尾連峠(13:50)→四尾連湖・水明荘(14:15)

島崎さん、横堀さん、岩田さん、白井さんは電車で。電車だと集合時間がきびしい八木さんと西2名は車を使い、二手に分かれて、スタート地点の市川本町駅に向かう。ところが車組は予想以上に順調で、10時45分の集合に2時間ほど余裕ができてしまった。そこで車道が通じている水明荘にいったん食材や調理具を置きに行き、もう一度引き返して、駅で電車組を待つことにした。

7人は無事合流、10時50分に予定通り出発した。初日は、駅(260m)から四尾連湖(850m)まで、5キロの道のりを3時間かけて登る計画だ。

曇りがちだった空もいつしか陽光が差し込み、少しずつ暖かくなってきた。

15分ほど歩くと中国風の建物が並び碑林公園が見えてくる。(車は公園の駐車場に置いた)そのまま園内を直進し、登山道に入る。

温暖化の影響なのだろう。12月も下旬だというのに、山は紅葉が楽しめる。落ち葉の海をざくざく踏みしめる感触が気持ちよい。時折、茶色い葉っぱが上から舞い降り、顔をかすめては落ちていく。

幅広の登山道は几帳面なほど手入れがよい。一定間隔で標識が立ち、間違えやすい所にはロープがある。地形を巧みに使い、道も一定斜度でつけられている。息がきれることもなく順調に登っていった。あちこちに石碑やお地蔵様なども見られる。島崎さん絶好の被写体だ。

帰宅後に調べると、四尾連湖は古く富士を巡る霊場の湖沼「富士八湖」のひとつに数えられ、この道も講の人が辿った古道ということがわかった。歩きやすいわけである。

1時間ほど進むとあすまやのある狼煙台(788m)に着く。甲府盆地側が大きく開ける。左手に櫛形山、中央に八ヶ岳。眼下には富士川の河川敷が光り、今まで見たことのない景色だ。

雑木林と檜の植林がまじりあい、山はしだいに奥深い雰囲気になってくる。尾根づたいに、ピークを右へ左へと巻きながら標高をあげる。狼煙台から1時間弱で四尾連峠(1000m)に到着。そこからは尾根を外れ、少しの下りで四尾連湖に着いた。

四尾連湖は標高850m、周囲1.2kmの小さな山上湖だ。湧水の為、水は透明度が高い。アニメ「ゆるキャン△」の舞台にもなっているが、当日

は聖地巡礼の人もなく、静かな湖面は周囲の森を神秘的に映していた。

湖畔に建つ「水明荘」は旅館棟、自炊ロッジ、テントサイトを管理する一軒宿である。夏は林間学校や家族キャンパーで賑わうという。

「今日、他に宿泊者はいますか？ 私たち、夜はすごーくうるさいのですが・・・」

鍋とコンロを借りがてら、恐る恐る聞くと、

「大丈夫です。旅館棟は満室ですが、みなさんのロッジは誰もいませんから自由にやってください」

とのお返事をいただく。これはラッキーな日に当たったと心の中でにっこり笑った。

まだ15時前だが、自炊となるとやることも多い。朝、車で運んでおいた食材で鍋をはじめ、地酒やビール探しに売店へ行く人、食事の前にまずはお風呂の人。目白の行動は相変わらず自由だ。そして夕食と大歓談は夜遅くまで続いた・・・。

22日 曇り

四尾連湖・水明荘(7:00)→蛾ヶ岳(8:35)→四尾連峠(10:05)→碑林公園(12:00)

翌朝はどんより曇っていた。午後から雨予報なので、早めに出発する。

いったん尾根まで登り返すと、その先は昨日同様大きな起伏はない。淡々と樹林の枯葉道を進む。

1000mを越えるくらいから、木々はすべての葉を落とし、眺めがよくなる。

行く手にいよいよ蛾ヶ岳が現れる。堂々とボリューム感があり、標高以上に大きく見える。山を覆う冬木立は整然と並び、凛として美しい。上品な日本画を見ているようだ。

最後は急登が15分、蛾ヶ岳(1279m)山頂に立った。

突然正面に富士山が現れる。それも、とっても大きな姿だったので、みんな大歓声を上げた。反対側には、白銀に光る南アルプス連山とハヶ岳。さらに目を凝らせば、竜ヶ岳、毛無山、甘利山、茅ヶ岳などの個性派たちがずらりと見渡せる。地味なアプローチの後は、山頂の大展望。どんでん返しの演出が見事な「蛾ヶ岳劇場」だった。

帰りは来た道を引き返す。幸い雨雲は近寄らず、気温もさほど下がらなかった。

高度を下げるにつれ、景色は冬から秋へとふたたび逆戻りした。そうして、赤茶色に乾いた最後の紅葉に名残を惜しみ、2日間の登山を締めくくった。

今回の山行は、台風の影響で急きょ場所変更になったにも関わらず、多くの参加があり、ありがとうございました。いつもと反対から見る富士山と周辺の山は新鮮な眺めで、御坂山塊と他山の位置関係も確認できました。

次回は、蛾ヶ岳からさらに前進し、精進湖上の三方分山まで縦走してみたいと思います。

そして合宿はまだまだつづくのです・・・。



樹間から光の差し込む四尾連峠



富士山を背景に蛾ヶ岳山頂